

賢治先生も聴いた「アンジェラスの鐘」

宮沢賢治は、人首を訪れ、朝・昼・夕に鳴るカトリック教会のアンジェラスの鐘の音を聴いています。人首カトリック教会は明治 17 年に設立され、38 年にはフランス製のアンジェラスの鐘が人首町に鳴り渡りました。そしてカトリック教会から 400m 程離れた所にロシア正教会があり、ハリストスの鐘の音も聴いているはずですが。教会はジャック神父・ドシェ神父・マリオン神父等によって伝導が続けられ、戦後になると渡部一雄夫妻がカトリカ教会に赴任し、伝道活動を続けました。人首町の子等(今は 70 歳～)は日曜日の朝には、教会に集まり讃美歌を歌い、仏教徒であれ「アーメン」と祈り、神父さんのお説教を聴いたものでした。教会で心のあり方を教えられたような気がします。渡部さんが亡くなられ、3 人のシスターが赴任し教会を去ってからは、教会も荒れ果て取り壊されてしまいました。しかし、地元の人達から「アンジェラスの鐘を失くすな」との声が出、水沢教会が主導し大内喜三氏が中心に 1・2 区地区民の協力で鐘の塔を再建。花壇も作った。それから教会の下にある中山さんが、子供会や放課後スクールの子ども達と共にアンジェラスの鐘を鳴らし続けてきました。昭和 38 年にはカトリカ教会の真向かいの高い丘にある人首墓地にマリア様の像(テレジア欠畑美奈子作)が作られました。しかし、それも 3・11 の震災で壊れてしまいました。アンジェラスの鐘は夕方 5 時にお寺の鐘と前後して鳴り響いています。 ※地元の人々はカトリカ教会と呼んでいます。



新しい鐘の塔の除幕式



新しい鐘の塔



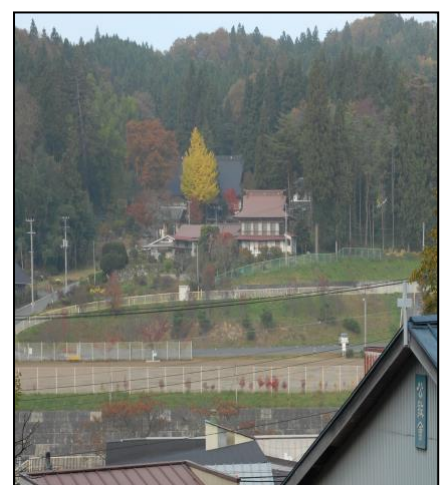
教会の管理をしている中山夫妻



一本杉のマリア様の像



中山さんの指導で



教会の向こうが自徳寺